

企画展 『小川家の昭和28年』 2023.6/9～

昭和28(1953)年5月柳宗悦(やなぎ むねよし)はバーナード・リーチと山陰・山陽・四国を旅行している。6月は日本民藝協会「第7回全国協議会鳥取大会」が開催された。倉吉の河原町小川家に立ち寄ったのは6月9日のことであった。

大正14(1925)年柳は河井寛次郎・濱田庄司と木喰(もくじき)調査のため紀州を旅行中、「民藝」の新語をつくった。翌年、「日本民藝美術館設立趣意書」が発表され、民芸調査と蒐集の旅が始まる。日本民藝館の完成は昭和11(1936)年である。

小川家との関わり

◆昭和28年6月9日 柳宗悦、バーナード・リーチ、濱田庄司ら御一行を小川家7代目 小川貞寿が歓待している。一行は、小川家土蔵から高さ約50cm・胴回り71cmの超大型の〈備前忌部焼 油壺〉を階段下より発見し、「どの民芸館にもない絶品」と。その壺は、東京の日本民藝館に所蔵されたという。

(6/11日本海新聞記事 松尾茂『鳥取昭和史』1975)

◆昭和28年6月26-28日 瀬崎町大橋旅館で棟方志功が上神焼60枚の皿に絵付けを行った。(「長谷川富三郎年譜」『長谷川富三郎遺作集 無弟』新日本海新聞社 2005)

その絵皿1枚が小川家に伝わり、長谷川富三郎の書付とともに伝わる。

どちらも、長谷川富三郎の存在が大きい。

主な展示品

- ◆濱田庄司 茶碗 *展示品は期間中、入れ替える予定
- ◆バーナード・リーチ 茶碗
- ◆河井寛次郎 茶碗・花入
- ◆棟方志功 絵皿 ◆長谷川富三郎書付 ◆棟方志功絵付け風景写真
- ◆長谷川富三郎 版画・絵皿
- ◆倉吉の茶陶 伯尾山 茶碗 (弘化～文久3(1863)年) 淡々斎書付
伯州尾山 備前写手鉢・南瓜形手焙・蓋付碗
(文久3(1863)～明治10(1877)年)
- 亀玉山 釣鐘形水指・吸出茶碗(明治26(1893)～32(1899)年)
- 玉伯焼 茶碗 (大正15(1926)年) 大西良慶筆



伯州尾山 柄菓子器



伯州尾山 蓋付碗



亀玉山 釣鐘形水指